

美術科学習指導案

指導者 重本 優紀

日時 令和4年11月19日(土) 第2校時 10:25~11:15
年組 中学校 第3学年2組 計39名(男子18名,女子21名)
場所 中学校美術室
単元 心をとすあかり

単元について

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)美術第3学年の内容A表現(1)イ(ア)に重点を置いて指導を行う。本単元でめざす子ども像は、「自分を取り巻く生活や環境に主体的に働きかけながら、自分の人生を豊かにする表現を追求し、楽しむことができる子ども」である。「あかり」は私たちの生活に密接に関わるものであり、「あかり」があることで人は心が安らいだり、その光の効果の美しさに心動かされたりする。また、「あかり」を置く空間について考えることで、身の回りの環境に働きかけることや作品が自然と調和することの大切さに気づき、生徒が自らの生活を豊かにする美術の働きについて考えを深めることができる単元だと考える。授業では「光の演出」によって人の心を動かす光の効果について考える題材と、「あかり」によって人の心に安らぎをもたらす光の効果について考える題材を設定する。二つの光の効果について考えることにより、光の使い方によって人の感じ方が変わることを実感できるようにしたい。「光の演出」では、学校行事のステージ・展示で発表する「プロジェクションマッピング」を制作する。音楽のイメージに合わせてプレゼンテーションのアニメーション機能を使い、人を感動させるような映像作品を目指して制作に取り組む。「あかり」では、部屋に飾る「ウェルカムランプシェード」を制作する。部屋に入った時に自分や来訪者を迎えるあたたかな「あかり」の形について考える。素材は竹や針金を骨組みにし、和紙や厚手のトレーシングペーパー、ケント紙を用いてシェードの形をつくる。紙の素材を使うことで、光の透け方や形の美しさ・面白さを追求して制作できるようにすること、また、素材の柔らかさや温かみを感じながら制作できるようにすることをねらった。

本学級の生徒は、自分の考えを工夫して作品に取り入れ表現することに意欲的である。2学年時のモダンテクニックを用いたコラージュ制作では、画用紙の素材を使って切る・折る・ちぎるなどの加工の工夫を主体的に取り入れて自分の表現方法を追求する姿が見られた。一方で、レリーフ制作といった立体作品では、立体の前後の関係性を捉えたり、細かな造形をつくったりすることに苦手意識がある生徒が多く見られた。「あかり」の制作では、竹や針金で骨組みをつくったり、紙を貼り合わせたりして、自分の考えるイメージをどのように形にしていくかを考えながら計画して制作に取り組む必要があり、この制作を通して生徒が試行錯誤しながら自分の考えを具現化する力を身に付けられるようにしたい。また、3学年はこれから自分の進路と向き合い自分の将来を切り拓いていく時期である。緊張が続くような生活の中、部屋に帰ると心がほっとあつたまるような「あかり」について考えることで、部屋を使う自分や部屋に招き入れる相手の気持ちについてじっくり考えたり、光がもたらす効果や重要性に気づいたりする機会にしたい。

指導にあたっては、導入時に実際に光の効果を見せることで、光の使い方によって見る人にさまざまな感情をもたらすことができることを実感できるようにする。「光の演出」では、教室の壁面に映像を投影することで、人に驚きや意外性を感じさせる光の効果についての理解を深める。「あかり」では、光のゆらぎから感じるリラックス効果を味わうことができるよう、ろうそくの炎を教室に置いてじっくり見つめる時間をもつ。制作で用いるLEDライトはゆらめく小さなあかりであるため、光を透過させる方法

やシェードの形を工夫するための動機付けとしたい。制作においては、ランプシェードの試作の時間を設け、紙の素材に慣れるようにする。また、切り込みを入れた紙の形や蛇腹折りなどの練習を通して紙の重ね方や折り方によっても光の見え方が違うことに気づき、自分の作品づくりの発想に生かすことができるような試行錯誤の場を保障する。発想段階のワークシートでは、「あかり」を置きたい場所について考えることで「あかり」を置く空間や環境について考えられるようにする。自分を含めて見る人の心を温めるような「あかり」にするためにはどのような形にするのがよいか、試行錯誤の中で自分の考えを深めたり、変化させたりできるように、制作過程を記録できるようにする。タブレットで制作過程を写真に撮り、思考の過程を記録する補助になるよう指導する。

指導目標

- ・ 形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果などを理解することができるようにする。また、材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。
- ・ 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ることができるようにする。
- ・ 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、主体的に心豊かな生活を創造するためのデザインを考えたり鑑賞したりする学習活動に取り組みもうとする態度を養う。

指導計画（全 11 時間）

次	時	学習内容
1	1～2	・ 光の演出（人の心を動かす光の効果について）
2	3	・ あかりの鑑賞（人の心を落ち着かせる光の効果について）
3	4～5	・ ランプシェードの試作
	6	・ ランプシェードのアイデアスケッチ
	7～9	・ ランプシェードの制作（本時 8 / 11）
4	10	・ あかりがつくる空間（ランプシェードを置く部屋をプランニングする）
	11	・ 相互鑑賞

本時の目標

光の透け方を確かめながら紙の重なりや形を工夫して表現することができる。【知識・技能】

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

導入において、生徒が自分自身の生活を振り返り、「日常で自分がどのようなことを考えているか」、「そこにどのような安らぎを置きたいのか」といった自分の思いを具体的に話す活動を取り入れ、自分の思いが反映されるよう光の効果を考えて形を工夫することができるようにする。【授業構想力】紙の素材を扱うことにより、加工のしやすさ、素材の柔らかさや温かみを感じて制作に生かせるようにする。【授業構想力】生徒の思いをワークシートや発言からくみ取り、素材の扱い方や形の表し方を提案し、

生徒の発想や技術力を高めていけるようにする。【授業実践力】【授業分析・評価力】

学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
<p>1. ワークシートをもとに前時で作成したランプシェードの形のイメージについて進捗状況と課題を振り返る。</p> <p>2. 制作の手順について確認する。</p>	<p>○ 前時の制作の中で試行錯誤した内容を共有して本時の制作の見通しがもてるよう、4人グループで互いの制作過程を交流する場をもつ。</p> <p>○ 素材や道具の扱い方について工夫できるように基本を説明する。</p>
<p>光の透け方を確かめながら紙の重なりや形を工夫して表そう</p>	
<p>3. 制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹や針金で形の骨組みをつくる ・紙を切って貼り合わせるなどして形をつくる ・素材に色を付けて加工する など <p>4. 制作過程を写真に撮り、タブレットに記録する。</p> <p>5. 制作過程を4人グループで交流し、仲間の作品のよさや面白さを見つけて記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の重ね方による美しさ ・素材の違いで透け方が違うこと ・紙の加工方法に工夫があること など <p>6. 自己評価をする。</p>	<p>○ 光の透け方を確かめながら紙の重なりや形の工夫できるようにするため、暗幕スペースを設置する。</p> <p>◆ 紙の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。【知識・技能】</p> <p>○ 生徒が自分の思考のプロセスを振り返ることができるように、制作の途中段階で記録しておきたいタイミングで作品の写真を撮るよう促す。</p> <p>○ 写真をいくつかピックアップして紹介し、紙の重なりや形の工夫について全体で共有できるようにする。</p> <p>○ この時間での最終の記録を残しておくよう指示する。</p>